

神経病理の立場から

広島大学病院 脳神経内科

東京都健康長寿医療センター 高齢者バイオリソースセンター

松原 知康

認知症の画像診断において、アミロイドPETは蓄積タンパクを直接可視化できる点で、MRIなどの形態画像に加えてさらなる情報を提供し、認知症を呈する疾患の鑑別や治療方針の検討において重要な役割を果たしている。近年、抗アミロイド β 抗体薬であるレカネマブおよびドナネマブが相次いで国内承認され、アルツハイマー病の進行抑制を目的とした薬物療法が実臨床に導入された現在、アミロイドPETの臨床的意義は一層高まっている。

しかしその診断インパクトの大きさゆえに、“アミロイドPET陽性＝アルツハイマー病”と短絡的に結論づける危険性を内包している点には十分な注意が必要である。

本講演では、自身が経験したアミロイドPET撮像剖検例を提示し、アミロイドPETの有用性と限界について考察する。認知症診療におけるアミロイドPETの適切な理解を深めるための一助となれば幸いである。

略歴

2011年 広島大学医学部医学科 卒業
株式会社麻生飯塚病院 初期研修医・後期研修医
2014年 広島大学病院 脳神経内科 医員
2017年 東京都健康長寿医療センター 高齢者バイオリソースセンター 医員
2023年 徳島大学病院 脳神経内科 特任助教
2025年 広島大学病院 脳神経内科 助教

現在に至る